

オンラインにおけるリアルタイム授業のちょっとした工夫

原口 友輝

今年度春学期は急遽オンライン授業となった。私は以下のようにリアルタイム型とオンデマンド型の授業を併用して週ごとに進めていった。15週分の内容を11週にまとめた。

- ①毎週授業時間に60～80分程度のリアルタイム授業（Zoom有償版を使用）
- ②それ以外の内容をオンデマンド型で配信（60分～120分の作業量）
- ③その他（読書課題レポート×2と最終レポートなど）

ここでは、私が手探りでリアルタイム型授業を行った際の「ちょっとした工夫」について述べる。また、反省についても述べる。普段アナログ人間な私ができることはたかが知れているが、共有することで他の教員の参考になることを期待している。

リアルタイム型を行う際、基本方針を立てた。それは、オンデマンド授業でできないことをやる、であった。たとえば次のとおりである。1.こちらが問いを投げかけ学生に答えさせ、それについてコメントする。2.そのようなやり取りを通して、授業の方法について教える。普段の対面型の授業のように、「このような授業方法を使うと、このような効果がある」ということを体験的に教えたかった。そのためにはリアルタイム型で行う必要があった。以下はその際の工夫である。

【通常時】

- ・授業開始数分前から開始まで、音楽を流した。→学生の音声チェックも兼ねた。
- ・PCは2台準備し、1台をメイン、1台を学生目線のモニターとして使用。
→提示画面があっているか確認できる。またメインが止まってもすぐに授業を続けられる。
- ・話をする際はパワーポイントの画面を提示した。
→「スクリーンモード」ではなく通常画面（言葉を入力したり修正したりできるため）。
- ・「問い」もパワーポイントの画面で提示した（音声を聞き取りづらい学生がいるため）。
- ・「挙手」機能で学生の進捗を確認した。→たとえば、全員を「挙手」状態にし、資料を読み終わった者は手を下ろさせた。（普段は「読んでいる間は資料をもって、読み終わったら置く」としている。）

【発問と解答】

- ・問いを投げかけ、3分ほど考えさせてから当てた（10名など）。
- ・学生を当てる際はランダム→名簿順をランダムにし、10名同時に名前をチャットで送信。
- ・答えさせるときは、いくつかのバリエーションをつけて行った。それぞれ長所短所がある。
 - チャットで文字入力させる→一番手軽。ただし、多人数を当てた場合は読みづらい。
 - MaNaBoのBoard→見やすい。学生は互いの意見に学びやすい。ただし、Zoomとの併用になるので、入力が難しい学生もいたようである。

○ Quizの解答欄（全員解答の場合）→学生は互いの解答を見れないため気楽に解答できる。間違えてもいいように、「入力さえすればどのような解答でも点数が入る」設定にしたりした。

- ・ 以上をパワーポイントに箇条書きしたりペン入力でウェビング形式でまとめたりした。

【反省と課題】

- ・ PC画面にペンで板書のように入力したが、ペンタブなどを使った方が操作しやすかったと思う。
- ・ 学生に考えさせている時間に軽くしゃべってしまったことがあったが、黙っているべきだった。接続確認の意味もあったが、それなら軽い音楽などを流せばよかった。
- ・ PCではない学生は、ZoomとMaNaBoとを併用するのが難しかったようである。
- ・ 今回は、普段から対面で行っている工夫をオンラインで試していった。ある程度上手くいったが、オンラインならではの、対面ではできない工夫はほとんどできなかった。今後はオンラインによる強みを、対面型の授業においても併用する形で取り入れていきたい。